



コモンズ30 +しずぎんファンド

〈月次報告書〉



● 基準価額の推移



● ファンドのデータ

(2018年2月28日付)

基準価額	13,496円
純資産総額	505百万円

※基準価額の計算において、運用管理費用(信託報酬)は控除して
います(後述の「コモンズ30+しずぎんファンドの費用について」を
ご覧ください)。

※当ファンドの信託報酬率は、ファンドの純資産総額の一定の
増加により逓減する仕組みとなっており、当レポート作成
基準日現在、年率1.242%(消費税込)です。

● 分配実績(1万口あたり、税引前)

第1期 (2015年12月18日)	0円	第2期 (2016年12月19日)	0円	第3期 (2017年12月18日)	0円
----------------------	----	----------------------	----	----------------------	----

※分配金実績は、将来の分配金の水準を示唆あるいは保証するものではありません。
※収益分配金は委託会社が決定します。分配を行わない場合もあります。

● 基準価額(税引前分配金を再投資したものととして算出)の騰落率

(2018年2月28日付)

過去1ヶ月間	3ヶ月	6ヶ月	1年	3年	設定来
▲2.50%	1.06%	12.63%	20.83%	25.57%	34.96%

※「基準価額の騰落率」は、基準日から過去に遡った期間です。

● ポートフォリオの構成比

	当月末	前月末比
コモンズ30ファンド (マザー)	92.1%	0.1%
静岡銀行株式	7.3%	▲0.5%
現金等・その他	0.6%	0.5%
構成銘柄	31社	0社

● 運用状況(コモンズ30マザーファンドについての記載となります)

◎2月のファンド月間リターンとその要因

2月のファンドの月間リターンは、2.50%の下落となりました。

銘柄別の月間リターン上位3銘柄は、「資生堂(+15.35%)」、「堀場製作所(+13.27%)」、「日揮(+4.46%)」となりました。資生堂は、2017年12月期の通期決算において利益率の改善を確認できたことなどが強く好感されました。堀場製作所は、2017年12月期の通期決算が大幅増益となったことや、2018年も好調を維持するとの見通しなどが株価を押し上げました。日揮は、第3四半期決算(10-12月期)においてプロジェクトマネジメントが順調であることや、通期会社計画を上回る進捗を確認できたことなどが好材料となりました。下位3銘柄は、「SMC(▲15.86%)」、「クボタ(▲12.18%)」、「日東電工(▲10.74%)」となり、世界同時株安の影響に加えて、後述する個々要因によって下落しました。SMCは、第3四半期決算(10-12月期)での労務費や素材価格の高騰による利益率低下などが嫌気されました。クボタは、2017年12月期通期決算及び2018年12月期会社計画が市場の期待を下回ったことなどが材料視されました。日東電工は、自己株式取得を発表したものの、ライフサイエンス事業の先行き懸念などが悪材料視されました。

なお、ベビーファンドで直接投資している静岡銀行株式の月間騰落率は6.37%の下落でした。

運用部・シニアアナリスト 鎌田 聡

◎運用責任者メッセージ

2月の内外金融市場は、これまで低位に安定していた米国株式の変動率(ボラティリティー)の急激な高まり、及び米国長期金利の上昇をきっかけとして米国発の世界的な株安となりました。また、世界的な景気上振れを受けて、先進国の中央銀行が金融政策の正常化へのプロセスを急ぐ懸念も台頭しつつあります。

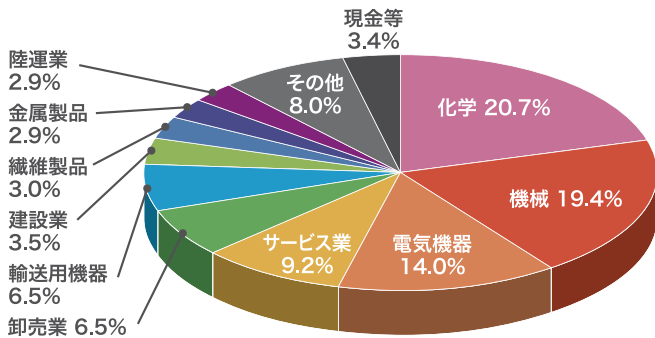
これまでの低インフレ、低金利、低い株式市場の変動率がリスク資産の上昇を後押ししてきましたが、今後は、リスク資産ならどれでも上昇する局面から、しっかりとしたファンダメンタルズ(経済の基礎的条件)や企業業績の分析に基づく投資が重要になってくると考えています。つまり厳選された投資が効果をもたらす局面です。まさに当ファンドの運用に適した環境でもあります。事実、コモンズ30マザーファンドは、年初からの下落局面での耐性を発揮していますが、今後も、慎重なスタンスを維持しながら長期的な視点での厳選投資を続けて参ります。引き続き、ご期待ください。

最高運用責任者 伊井 哲朗

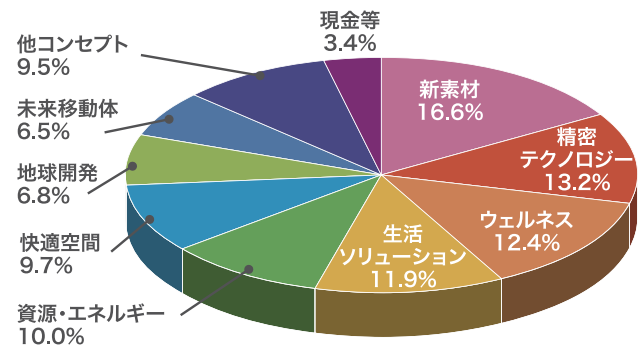
● コモنز30マザーファンドの業種別構成比と未来コンセプト別構成比

(2018年2月28日付)

◎業種別構成比



◎未来コンセプト別構成比



- 比率は純資産総額を100%として計算しております。
- 比率は四捨五入の関係で合計が100%にならない場合があります。
- 業種については東証33分類に基づいて記載しております。

● 組入上位10銘柄(静岡銀行株式を除く)

(2018年2月28日付)

コード	銘柄名	未来コンセプト	概要	組入比率
4911	資生堂	ウェルネス	銀座も、アジアも、美しく	3.8%
6146	ディスコ	精密テクノロジー	kiru, kezuru, migaku, 世界を代表する精密加工装置メーカー	3.8%
8035	東京エレクトロン	精密テクノロジー	創業時のエネルギーが、脈々と続く「革新」を続ける会社	3.8%
4063	信越化学工業	新素材	戦略的なポジショニングに優れ、素材メーカー随一の収益性	3.7%
6301	コマツ	地球開発	世界のインフラを作る日本のモノづくり力&IT力	3.6%
6856	堀場製作所	精密テクノロジー	「おもしろおかしく」、時代に合わせて領域を拡大	3.6%
3407	旭化成	新素材	化学繊維事業から医薬・エレクトロニクス事業へ事業転換を続ける伝統企業	3.5%
1963	日揮	資源・エネルギー	アジア・アフリカの未来を創る国境なき技術団	3.5%
6902	デンソー	未来移動体	自動車市場拡大の恩恵を受ける	3.5%
6367	ダイキン工業	快適空間	世界一快適な空気をつくる	3.4%

◎未来コンセプトとは 当ファンドが独自に行っている業種分類です。以下のように10種類に分類を行っております。
 「資源・エネルギー」「新素材」「精密テクノロジー」「ウェルネス」「生活ソリューション」「社会インフラ」「未来移動体」「快適空間」「地球開発」「ライフサイクル」

● 新規組入投資先

なし

● 今月のピック!

2月は資生堂の株価が15.4%上昇しました。7日発表の2017年12月期通期決算で、2017年11月に上方修正した営業利益見通し650億円を大幅に上回る804億円での着地となりました。売上高は初の1兆円突破となり、中長期戦略「VISION2020」の売上高目標を3年前倒しで達成しました。前年度からの増収率は2割に迫る勢いで、営業利益は前年度の2倍、営業利益率は8%に到達し、稼ぐ力が急速に向上しています。業績の成長牽引エリアは日本、中国、トラベルリテール(日本除く全世界の免税店)です。注力しているプレステージブランド(デパートや化粧品専門店を中心にカウンセリングを通じて販売している、付加価値の高い高価格帯化粧品)がグローバルで重要な柱として成長しています。

2018年12月期業績見通しの公表は、3月上旬の中期経営計画発表時に併せて行われる予定です。日本、中国では市場を上回る成長でシェアを拡大しており、今期以降も業績の更なる拡大が期待されています。

運用部・シニアアナリスト 末山 仁

● 企業との対話

【コマツ、三菱商事との対話】

3月10日(土)に開催するコモンズ9周年イベントにて、企業との対話のコーナーにご登壇いただくコマツ、三菱商事。基調講演で魚谷社長にお話いただく資生堂と共に、コモンズ30ファンドが運用スタート当初から投資させていただいている企業です。

かれこれ9年、投資をさせていただいていることになるわけですが、2社とは女性の活躍セミナーや統合レポートワークショップにてこれまで対話の機会を持ってまいりました。

先日、日本のM字カーブがほぼ解消したというニュースが出ていましたが(M字カーブとは、女性が出産や育児によって職を離れ、30代を中心に働く人が減る現象のこと)、特に2012年以降の5年間で6%ポイントも上昇するなど、顕著な傾向になっています。

私たちは、投資先の「見えない価値」のひとつに、「女性の活躍」という視点もあるのではと、2013年12月にコモンズ30塾第1回「女性の活躍」セミナーを開催しました。まさに女性活躍の機運が高まり始めたころでした。そして、2014年3月、第2回目の同セミナーに、コマツから浦野邦子執行役員(当時)をお招きし、お話をお聞きしたのです。

三菱商事にコモンズ30塾に初めてご参加いただいたのは2016年2月に開催した「統合レポートワークショップ」でした。これも、レクチャー形式のセミナーとは異なり、統合レポートを使ってグループワークなどを行います。参加者のみなさまが企業の生の声を聴き、企業は参加者からの意見・提言に耳を傾けるライブ形式の「直接対話」「意見交換」の場となっています。こうした取組が可能になるのは、やはり「長期投資」だからこそです。

持続的な成長を続ける企業に“長期”で投資をするには、売上や利益といった短期的な実績や見通しで判断はできません。持続的な成長を遂げるために必要な要素を私たちは「5つの軸=収益力・競争力・経営力・対話力・企業文化」と定めていますが、こうした観点をもって長期での投資を前提としているからこそ、女性の活躍や、統合レポートへの視点といったテーマでの投資家との対話に企業も積極的に応じてくださるのです。

そして、3月10日(土)の9周年イベントの中でも、この視点は変わりません。持続的な成長を支える「見えない価値」にフォーカスして、その「見える化」に挑むのが、「対話」の場なのです。ぜひ、この「見える化」への取組に、より多くの方にご参加いただきたいと思っております。どうぞ、お楽しみに！



2014年3月コモンズ30塾女性の活躍セミナー
「コマツ」をお迎えして



2016年2月コモンズ30塾統合レポートワークショップ
「三菱商事」をお迎えして

マーケティング部 福本 美帆

● ちょっといい話

【株価の変動に惑わされず、企業の本質を見極める】

2018年の株式市場は好調なスタートとなりましたが、2月に入り大きな下落に見舞われました。心配されている方も少なくないと思いますので簡単に解説いたします。

今回の株式相場下落は、米国発の世界的な株価調整です。その背景は、①米国の景気回復が上振れてきたことによる米国長期金利の上昇、②長く続いた適温相場の反動の2点と考えています。まず、①について、先進国は2008年のリーマンショック以降、金融緩和を続けてきましたが、現在は、全世界でリーマンショック以降、最も景気が回復しています。こうした景気回復により欧米の中央銀行は、金融緩和を慎重なスタンスではありますが、少しずつ正常化(金利が上がる)の方向に進めています。足元で、さらに景気が上振れしはじめたので長期金利の上昇も早まりました。年初より勢いを増していた米国株式市場でしたが、金利の上昇から相対的に株式への魅力が薄まることを意識した価格調整に入りました。これは健全な調整です。つぎに、②について、適温相場は大きな下落もなく順調に株価の上昇が続く環境のことを意味しますが、その副産物として株価の変動率が歴史的に小さくなっていったことがあげられます。この変動率の小ささに注目した運用が近年、人気化していましたが、今回の大きな変動に見舞われたことで、その戦略上、機械的に株式資産の圧縮(売却)を進め、それがさらに変動を大きくして、売りが売りを呼ぶ連鎖的な反応が起きました。世界の金融市場は連動性を高めていますので、その波が日本の株式市場にも押し寄せてきたわけです。

このように株価は、時として投機的な動きをするわけですが、その本質は企業の実態価値を現わすものです。企業の業績が10%で成長すれば株価は上下することはあっても、いずれその成長に収れんしていくものです。1月下旬、IMF(国際通貨基金)は、世界の経済成長見通しを2018年3.9%成長、2019年3.9%成長と上方修正しています。久しぶりの4%近い成長率です。しかも、日本を含む先進国、新興国、発展途上国まで、ほぼ全ての地域の経済成長を上方修正しているのです。

しばらくは春の嵐に相場は一喜一憂すると思いますが、「コモンズ30+しずぎんファンド」は、2月を含め、こうした時ほど耐性を発揮してきました。どうぞ、引き続き、当ファンドにご期待ください。



コモンズ投信株式会社
代表取締役社長 伊井 哲朗

● コモンズ30+しずぎんファンドのリスクについて

当ファンドは、値動きのある有価証券等に投資するため、その基準価額は変動します。したがって、お客さま(受益者)の投資元本は保証されているものではなく、基準価額の下落により損失を被り、投資元本を割込むことがあります。委託会社の運用により生じるこうした基準価額の変動による損益は、すべてお客さま(受益者)に帰属します。なお、投資信託は預貯金と異なります。お客さま(受益者)には、当ファンドの内容・リスクを十分にご理解のうえ、ご投資の判断をしていただくよう、よろしくお願い申し上げます。なお、下記のリスクはすべてのリスクを網羅しているわけではありませんので、ご注意ください。

価格変動リスク	当ファンドは実質的に国内外の株式を組入れるため、株価変動の影響を大きく受けます。一般に株式の価格は、個々の企業の活動や業績、国内および国外の経済・政治情勢などの影響を受け変動します。株式の価格が下落した場合には基準価額は下落し、投資元本を割込むことがあります。
流動性リスク	有価証券等を売却あるいは取得しようとする際に、市場に十分な需要や供給がない場合や取引規制等により十分な流動性の下での取引が行えない、または取引が不可能となる場合が生じることを流動性リスクといいます。この流動性リスクの存在により、組入銘柄を期待する価格で売却あるいは取得できない可能性があります。この場合、不測の損失を被るリスクがあります。
為替変動リスクおよび カントリーリスク	外貨建資産を組入れた場合、当該通貨と円との為替変動の影響を受け、損失を生ずることがあります。また、当該国・地域の政治・経済情勢や株式を発行している企業の業績、市場の需給等、さまざまな要因を反映して、当ファンドの基準価額が大きく変動するリスクがあります。

● その他の留意点

収益分配金は、預貯金の利息とは異なります。収益分配金の水準は、必ずしも計算期間におけるファンドの収益の水準を示すものではありません。収益分配は、計算期間に生じた収益を超えて行われる場合があります。投資者の購入価額によっては、収益分配金の一部または全部が、実質的な元本の一部払戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がり率が小さかった場合も同様です。収益分配の支払いは、信託財産から行われます。従って純資産額の減少、基準価額の下落要因になります。

● 販売会社一覧

販売会社名称		登録番号	日本証券業協会	一般社団法人 金融先物取引業協会	一般社団法人 日本投資顧問業協会	日本商品先物取引協会
株式会社静岡銀行	登録金融機関	東海財務局長 (登金)第5号	○	○		
マネックス証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長 (金商)第165号	○	○	○	
静岡ティーエム証券株式会社	金融商品取引業者	東海財務局長 (金商)第10号	○			

● コモンズ30+しずぎんファンドの費用について

購入時手数料	販売会社が、別途定める購入申込手数料を申し受ける場合があります。なお、販売会社における購入申込手数料率は3.24%(消費税込)が上限となっております。
換金手数料	ありません。
運用管理費 (信託報酬)	ファンドの純資産総額に年1.242%(消費税込)を上限とした率を乗じて得た額とします。なお、基準価額は、信託報酬控除後のものです。信託報酬は、純資産総額の一定の増加により逓減する仕組みになっています。
信託財産留保額	ありません。
その他の費用 ・ 手数料	当ファンドに組み入れる有価証券等を売買する際の売買委託手数料およびこれにかかる消費税等相当額などの実費が投資信託財産より控除されます。また、目論見書・運用報告書等作成費用、監査費用、信託事務に要する諸費用等として、純資産総額の0.108%(消費税込)を上限として投資信託財産より控除されます。上記の手数料(費用)等の合計額については、運用状況、保有期間等に応じて異なりますので、上限額等を事前に示すことができません。

● お申込みメモ

商品分類	追加型投信/内外/株式
信託設定日	2014年12月29日
信託期間	無期限(ただし、ファンドの残存口数が10億口を下回った場合等には信託期間の途中で信託を終了させることがあります。)
分配方針等	毎決算時に、委託会社が基準価額水準、市況動向等を勘案して決定します。ただし、分配対象額が少額の場合には分配を行わないことがあります。当ファンドは分配金再投資専用です。よって、分配金は税金が差し引かれた後、自動的に再投資されます。なお、収益の分配に充てなかった利益については、運用の基本方針に基づいて運用を行います。
購入単位	販売会社によって異なります。詳しくは販売会社にお問い合わせください。
購入価額	購入申込受付日の翌営業日の基準価額
換金単位	販売会社によって異なります。詳しくは販売会社にお問い合わせください。
換金価額	換金申込日の翌営業日の基準価額
換金代金の支払い開始日	換金申込日から起算して5営業日目
申込締切時間	購入・換金ともに原則毎営業日の午後3時までです。 午後3時を過ぎてのお申込は、翌営業日のお申込みとして取扱います。

○当資料は金融商品取引法に基づく開示資料ではありません。○投資信託は設定・運用を投資信託会社が行う商品です。

◆本資料は、コモンズ投信が投資家の皆さまに情報提供を行なう目的で作成したものです。◆このレポートは、信頼性が高いと判断された情報等に基づいて作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。記載された意見・見通し等は作成日時点のものであり、将来の株価等の動きやファンドの将来の運用成果を保証するものではありません。また、将来予告なしに変更される場合もあります。◆投資信託の取得を希望される方は、コモンズ投信または委託会社が指定した販売会社でお渡しする投資信託説明書(交付目論見書)を必ずご確認くださいのうえ、ご自身の判断でお申込下さい。

金融商品取引業者
関東財務局長(金商)第2061号
加入協会 一般社団法人投資信託協会
コモンズ投信株式会社
〒102-0093
東京都千代田区平河町2-4-5 平河町Kビル5階

委託会社お問い合わせ先

■ コールセンター (受付時間/平日 9時~17時)

03-3221-8730

■ ウェブサイト

<https://www.common30.jp/>